

資料提供

提供年月日	令和7年12月25日(木)
担当部課名	長浜城歴史博物館
担当者名	岡本 千秋・福井 智英
連絡先	長浜城歴史博物館(0749-63-4611)

長浜城歴史博物館

企画展「祈り、捧ぐ、つなぐ 一川道のオコナイを中心に—」の開催およびオコナイ行事に関するアンケートの実施について

このたび、長浜城歴史博物館では、令和8年2月14日から、湖北地域で集中的に実施されている民俗行事「オコナイ」に関する企画展を開催する予定です。

湖北地域のオコナイについては、これまで様々な調査が行われてきました。現在、先の調査から20年以上が経過し、社会情勢が著しく変化しました。それにともない、オコナイの実施状況や内容等についても、様々な変化があったと推察されます。特に、コロナ禍による地域行事や寄合の自粛・縮小の影響は大きかったと考えられます。

このことを踏まえ、企画展に先立ち、長浜市内におけるオコナイの現状について改めて把握すべく、オコナイに関するアンケート調査を実施しました。現在、その結果についてのとりまとめ・分析を進めており、その結果の詳細については、企画展において紹介します。

つきましては、市民の皆さんへのご周知、および取材にご協力いただきますようお願いいたします。

記

1,会期 令和8年2月14日(土)～3月29日(日)【44日間】

午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)

※休館日：毎週月曜日(ただし、2月23日(月・祝)は開館し、24日(火)休館。

2,会場 長浜城歴史博物館2階 展示室(長浜市公園町10-10)

3,入館料 大人500円／小・中学生200円

※20名以上の団体は2割引、長浜市・米原市の小・中学生は無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方およびその付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)

4,内容 詳細は別紙をご覧ください。

以上

「令和7年度オコナイに関するアンケート調査」分析結果について

1. 調査概要

事業名：「令和7年度オコナイに関するアンケート調査」
目的：長浜市域で行われている行事「オコナイ（おこない、行、神事など、地域によって様々な呼称がある）」の現状把握のため。
対象：長浜市全自治会437自治会（設立準備中等を含む）
※オコナイは、自治会内で行っていたり、氏子集団が行っていたり、実施の形態が様々であるため、関係者に繋げやすいように自治会長宛にアンケートを発送した。回答については自治会長に限らず、オコナイ行事について知っている者による回答も可とした。
発送日：令和7年8月28日（木）
回答締切：令和7年10月31日（金）
回収数：334件（うち自治会名無記名につき無効1件）
備考：詳細なアンケートの分析結果は、令和8年2月14日（土）開幕の企画展「祈り、捧ぐ、つなぐ 一川道のオコナイを中心に—」（会期：令和8年2月14日（土）～3月29日（日））において公表する。

2. 「オコナイ」とは

オコナイとは、西日本を中心に、全国的に行われている主に五穀豊穣ごこくほうじょうを願う民俗行事である。滋賀県では、甲賀市と湖北地域において盛んにおこなわれている。

湖北にはオコナイを実施している地域が密集しており、1～2月がオコナイの旬である。実施形態はさまざまであるが、大まかな流れとしては、地域住民（氏子、組員、講員など実施母体もさまざまである）が餅を搗き、それを寺社仏閣に奉納する。その前後に宵宮よいみやや本膳ほんぜんなどで集って酒を飲みかわす場が設けられる。その後、餅を下ろして、組織の構成員で分かち合うといったものである。ここに、松明を持って堂内を駆け回る、供える鏡餅が大きい、女装をするなど、地域それぞれの個性が加わる。

行事の中心には「コメ」の存在があり、多くの地域では鏡餅や餅花（特定の切枝に一口大の餅を付けて花のようにみせ、豊作や幸福を祈願するもの）といった餅を地域住民が作る。また宵宮や本膳では、地域住民が集って酒を飲みかわす。地域によっては大量の白米を食すしいめし（強飯）場面もある。

3. 分析にあたって

長浜地域のオコナイについては、昭和10年（1935）に民俗学者の肥後和夫らによる調査が行われ、「宮座資料」（明治大学中央図書館蔵）に取りまとめられている。その後、詳細な調査時期は不明であるが、昭和30年代に行われた『近江祭禮風土記』（井上頼寿編、1960）

掲載の調査や、平成 13 年（2001）に当館で開催した特別展「オコナイの源流をさぐる—佛教悔過の世界」展示解説図録掲載の調査をはじめ、様々な調査が行われてきた。

先の調査時から 20 年以上が経過した現在は、デジタル化の加速、少子高齢化や労働人口減少など様々な要因から、社会情勢は著しく変化した。それに合わせて、オコナイの実施状況やその内容についても、様々な変化があったと推察される。

特に、令和元年（2019）12 月～令和 3 年（2023）5 月までの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大による自粛期間、いわゆる「コロナ禍」においては、「3 密（密閉・密集・密接）」を避ける生活様式が求められた。そのため、大勢の人が集まる機会のあるオコナイのような民俗行事においても、内容の縮小や中止を余儀なくされた。

新型コロナウイルス感染症が令和 3 年（2021）5 月 8 日をもって「5 類感染症」に移行してから、4 年以上が経過した。コロナ禍を契機に行われた変更についても、関係者間で縮小状態を継続するのか、もとの形に戻すのかなど様々な議論が行われるには十分な期間があったと考える。

このことを踏まえて、長浜市内におけるオコナイの現状について改めて把握したいと考え、令和 7 年 8 月末に長浜市全域を調査対象としたアンケート調査を実施した。

オコナイの基礎的な情報に関する問は、特別展「オコナイの源流を探る—佛教悔過の世界—」展示解説図録に掲載されている「平成 13 年度年中行事調査」（以下、H13 調査とする）を参考に、約 25 年経過後の変化について比較できるようにした。

4、回答の分析

【凡例】

- ・割合について小数点第二位を四捨五入したため、合計した際に 100 にならない場合がある。
- ・長浜市は、平成 18 年（2006）2 月に旧長浜市、浅井町、びわ町の 1 市 2 町が合併、その後平成 22 年（2010）1 月に旧長浜市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町の 1 市 6 町が合併して現在に至っている。そのため H13 調査時について述べる際は、厳密には長浜市と一括できないが、便宜上、現在の長浜市域を「長浜市」と表現する。

◆オコナイの実施状況

【図表 1】の通り、回収した回答は 334 件であった。回収率は 76.4% に達しており、市域全体の傾向を捉える資料として一定の妥当性を有している。そのうち、オコナイを「現在も実施している」地域が 220 件（回答中の割合 65.9%）、「かつては実施していたが現在はしていない」地域が 16 件（4.8%）、「もともと実施していない」地域が 97 件（29.0%）、無効回答が 1 件（0.2%）だった。

地域別に比較を行うと、「現在も実施している」と回答した地域が 8 割を超えたのは、湖

北、虎姫、浅井、高月地域であった。これらは、H13 調査において実施率 100% であった地域、つまりアンケートに回答したすべての自治会で「現在も実施している」と回答した地域であった。ただし、いずれの地域も割合的には数値を落としているものの、R7 調査時には、H13 時以降に新設・統合された自治会や地域組織が含まれるため、2 つのアンケートを比較した時、データ上では、H13 に比べて R7 において割合が減少しているように見える。

また、北部地域に行くほど回答中の「かつては実施をしていたが現在はしていない」の割合が高くなっている、ここには戸数や住民の数が関係していると考えられる。

長浜市全体で見ても、平成 17 年（2005）の 124,498 人をピークに人口は減少傾向にある。

【参考 2】の表の通り、H13 調査に最も近い年である平成 12 年の国勢調査では、人口は 123,862 人、世帯数は 37,987 世帯であった。対して、R7 調査に最も近い年である令和 2 年国勢調査の資料では、113,636 人、42,570 世帯である¹。全体で見た時に、世帯数は増加しているが、人口は減少している。将来人口推計について、社人研推計によると、2060 年には 77,293 人まで減少することが見込まれており、国のペースと比較しても深刻な人口減少が進んでいくと推察されている²。

人口および世帯構成の推移を見ると、人口が減少する一方で世帯数が増加してきている。これは高齢単身世帯の増加や晩婚化・未婚化などの影響によるものであり、行事を担う人的関係が分散しやすくなるという点で、オコナイの継続条件に影響を与えていた可能性がある。

それは、オコナイは「ムラ」³の行事であり、多くの場合、脈々と戸主（家の代表者）に受け継がれていくためである。次世代の戸主が「ムラ入り」をして、地域のコミュニティに繋がり、地域の仕事に参画していくことになる。オコナイは神事でありながら、そういったムラ（まち）づくりの歯車の一端を担っていた側面がある。そのため、晩婚化・未婚率の増加によって、戸主の代替わりが行われない、もしくは従来のサイクルとはかけ離れる可能性が生まれる。加えて、そこに高齢化によって、参加者が体力的に行事への参加が難しくなり、行事全体の参加者が減少していくことになる。

本調査でオコナイの中止が比較的多く見られた地域は、人口減少幅が大きい地域と重なっている。また、この人口減少が多い地域では、世帯数も減少傾向にある。

そのため、近年、一部地域では人口減少に加えて世帯数も減少に転じており、行事を担う人的基盤がより厳しい状況に置かれていることがうかがえる。

また、H13 調査時と比較すると、状況が変化している地域が 20 件ある。これは、多くの場合は「実施していた」から「かつては実施していたが現在はしていない」への移行である。

¹ 令和 7 年 10 月 1 日時点での人口は 111,416 人、世帯数は 48,054 世帯である。

² 「長浜市人口ビジョン」（令和 7 年 3 月）による。

³ 現在において「村」というと、一般的には地方自治体としての村を指すが村にはもうひとつの意味があって、冠婚葬祭などのときの互助や神社の祭りをともに行う人々のひとかたまりの集まりのことをいう場合がある。民俗学や歴史学では自治体としての村と区別するため、カタカナで「ムラ」と表記することが多い。ここでも、家の集団を指す言葉として「ムラ」という表記を用いる。

しかし、H13調査では「実施している」と回答しているものの、「もともと実施していない」と回答をする地域もあり、オコナイについての伝承や資料が残っておらず、行事が中止された後、地域住民の間でその存在や内容が地域内で十分に伝えられなくなり、記憶として共有されなくなっている可能性を示している。

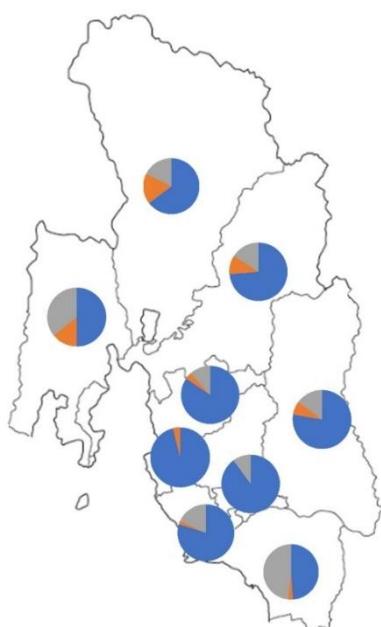
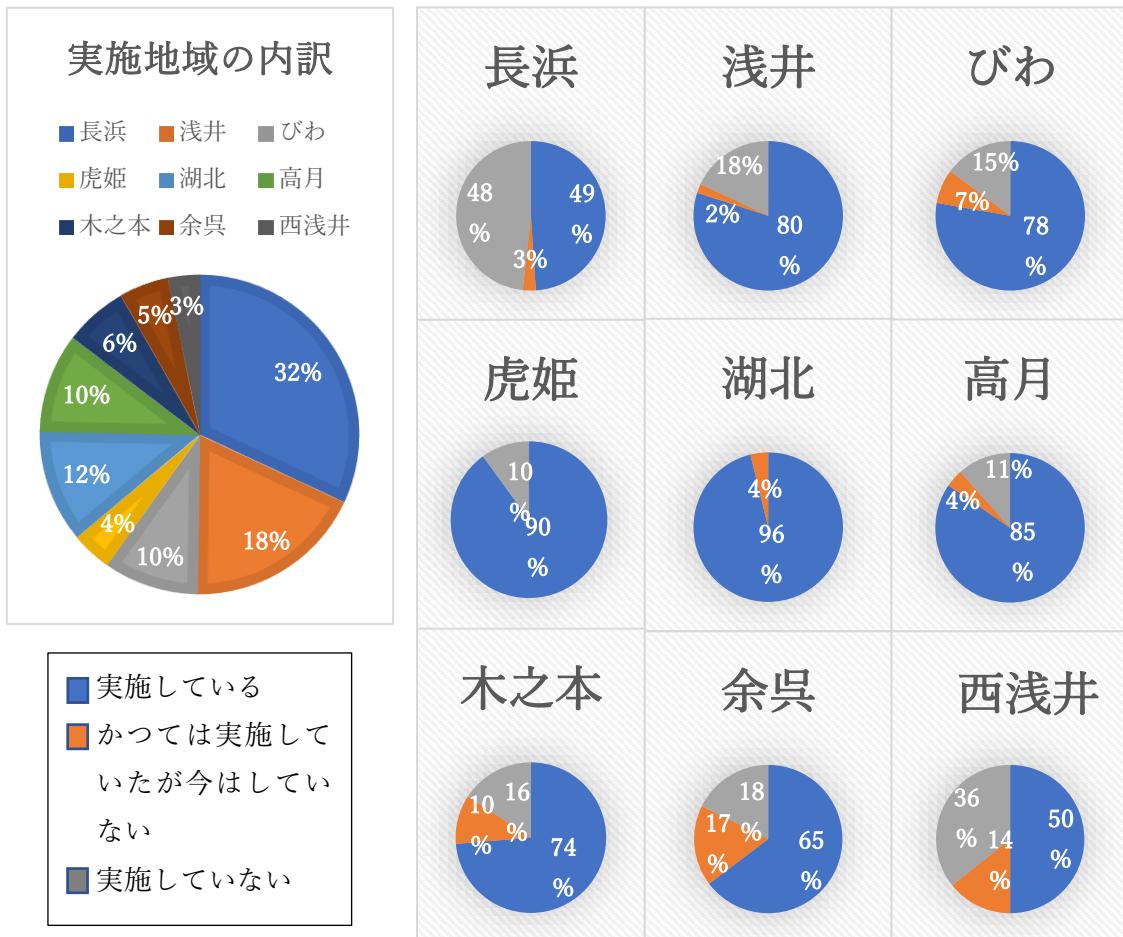
これについては、アンケートの配布先を自治会長宛にしたため、新しく地域に入った者が回答をし、上記の回答になっている可能性がある。とはいえ、地域について詳しい者へアクセスができない状況が想定され、本調査が示すのは、行事そのものの存続だけでなく、それを支えてきた社会的条件が大きく変化しているという点である。

【図表1】地域ごとの回答状況

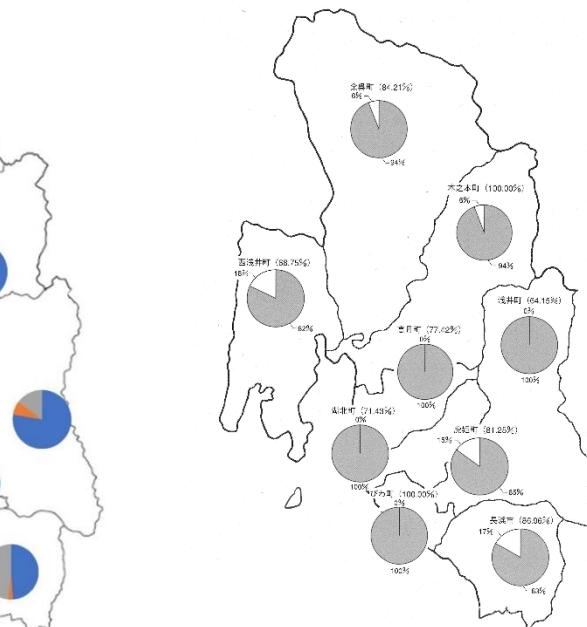
地域	自治会数 (件)	回答数 (件)	回答率 (%)	○ (件)	地域別 の割合 (%)	△ (件)	地域別の 割合 (%)	× (件)	地域別 の割合 (%)
長浜	193	144	74.6	71	49.3	4	2.8	69	48.0
浅井	62	50	80.6	40	80.0	1	2.0	9	18.0
びわ	29	27	93.1	21	77.8	2	6.9	4	13.8
虎姫	16	10	62.5	9	90.0	0	0	1	10.0
湖北	35	26	74.3	25	96.2	1	3.8	0	0
高月	35	26	74.3	22	84.6	1	3.8	3	11.5
木之本	27	19	70.4	14	73.7	2	10.5	3	15.8
余呉	19	17	89.5	11	64.7	3	17.6	3	17.6
西浅井	21	14	66.7	7	50.0	2	14.3	5	35.7
無効	—	1	—	—	—	—	—	—	—
合計	437	334	76.4	220	65.9	16	4.8	97	29.0

※○は「現在も行っている」、△は「かつては行っていたが今は行っていない」、×は「もともと行ってない」を示す。

【図表2】実施地域別の内訳（円グラフ）



【図表3】R7 調査の地域別実施状況



【参考1】H13 調査の地域別実施状況

げんりゅう ぶつきょうけか
特別展「オコナイの 源 流 をさぐるー仏教悔過の世界」
展示解説図録掲載の図を一部編集して使用

【参考2】平成12年、令和2年国勢調査による長浜市の世帯数および人口

世帯数	A 平成12年 (世帯)	B 令和2年 (世帯)	B-A (世帯)	備考	人口	A 平成12年 (人)	B 令和2年 (人)	B-A(人)	備考
合計	37,987	42,570	4,583		合計	123,862	113,636	-10,226	
旧長浜市	20,091	24,488	4,397		旧長浜市	60,104	60,255	151	
旧浅井町	3,484	4,080	596		旧浅井町	12,846	12,237	-609	
旧びわ町	1,894	1,999	105		旧びわ町	7,582	6,398	-1,184	
旧虎姫	1,761	1,633	-128	減少数3位	旧虎姫	5,854	4,628	-1,226	減少数4位
旧湖北	2,360	2,466	106		旧湖北	8,826	8,049	-777	
旧高月	3,080	3,148	68		旧高月	10,366	9,227	-1,139	
旧木之本	2,723	2,404	-319	減少数1位	旧木之本	9,170	6,387	-2,783	減少数1位
旧余呉	1,267	1,084	-183	減少数2位	旧余呉	4,218	2,790	-1,428	減少数2位
旧西浅井	1,327	1,268	-59	減少数4位	旧西浅井	4,896	3,665	-1,231	減少数3位

5、その他のアンケート項目について

4で紹介したアンケート結果には、その他に以下のような項目がある。

これらの分析結果は、令和8年2月14日（土）開幕の企画展「祈り、捧ぐ、つなぐ 一川道のオコナイを中心にー」において公表する。

《その他のアンケート項目》

餅の形態・準備の方法について、精進潔斎の有無について、行事の呼称について、女性の参加の可否について、コロナ禍の実施状況について、現在の実施内容について、行事継続の懸念点について、行事に対する思い・考え など

6、企画展について

①企画展概要

- 会期 令和8年2月14日（土）～3月29日（日）【44日間】
- 会場 長浜城歴史博物館2階展示室
- 開館時間 午前9時～午後5時（ただし、入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合、開館し、翌平日が休館日となる。
- 入館料 大人500円／小中学生200円

※20名以上の団体は2割引、長浜市・米原市の小・中学生は無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方および

その付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)

■主 催 長浜市

②企画展内容

「オコナイ」は、五穀豊穣などを祈願する伝統行事として知られています。全国的に行われている民俗行事ですが、湖北地域にはオコナイを実施する地域が特に密集して存在しています。

その中で最大規模のものが、「川道のオコナイ」です。かつては、7つの庄司（東村、西村、中村、藤之木村、川原村、東庄司村、下村）ごとに1俵の鏡餅をつくり、「献鏡屋台」と呼ばれる神輿状の台に載せて神社に奉納していました。

それぞれの村では、宿を務める当番2軒がオコナイ行事の準備を担当しました。当番宅は集会所として使用されることから畳や襖、玄関、風呂を新調したり、料理を振る舞ったりと負担は小さくありませんでした。それに加えて少子高齢化などによる担い手不足、さらにはコロナ禍の影響を受け、今後の存続が危ぶまれる中、令和3年（2021）以降、自治会が主体となって改革を実施してきました。慣習で認めてこなかった女性参加を解禁するなど、「持続可能」をキーワードに内容を大きく変更しました。

今回の企画展では、改革前の行事の姿を記録し、使用されていた道具等を通じてかつての行事の様子を紹介します。また、令和の改革以前に行われた改革の記録についても触れ、民俗行事を次世代に繋いでいく人々の姿に注目します。

あわせて、令和7年に実施した長浜市域のオコナイ行事の現状に関するアンケート調査の結果についても紹介します。

人々の生活や社会様式の変化の影響を受け、変わりゆく地域の伝統行事の価値を、改めて見直す機会となれば幸いです。